

「私たちにとっての律法」

私たちは社会的な生き物である以上、一人で生きていくことはできません。そのため、周囲の人々と「仲良くする必要」があります。しかし、世の中には悪い人もいて、そのような人を排除することで「自分は正しいことをしている」「自分は正しいあなたの仲間です」と共同体の中で示すことがあります。それが、私たちの本能的な、動物的な行動である「悪口や陰口」なのです。イエス様の時代のユダヤ人たちも、自分の正しさを追求して、自分たちが律法をまじめに守っているだけであれば、イエス様からは何も批判されなかったのでしょうか。しかし、特にファリサイ派の人々は律法を人に強制させて、なおかつその態度が「自分は正しいことをしている、この罪びとが悪いんだ」という姿勢になっていました。そのような姿勢は人間の本能からくる姿勢であり、しかし神様が望む理性的な姿勢ではありませんでした。

だからこそ私たちは、何が正しいことなのかをイエス様から教えられているからこそ、「正しさを武器として扱う」ことがないように気を付けなければいけないのです。誰かを傷つけるために「自分が正しい」という武器を振り回すのであれば、それは自分勝手に律法を振りかざすファリサイ派の人々の時代から、何も進歩していないということになってしまいます。そうではなく、「神様こそが正しい」「神様の望みのままに生きるんだ」という、神様第一の生活を心掛け続けることが出来れば、私たちは自分への愛で頑なにならずに済むのではないのでしょうか。

しかし難しいことに、私たちはそこからさらに一步踏み出すことが、求められています。特に今日の個所でイエス様は、「掟を守るように人に教える」ことを求めているのです。これがとても難しいのです。私たちが、自分が正しく生きることだけを行うのであれば、忍耐は必要ですが、この世で信仰深く生き続けることも可能なのでしょうか。ただ、それを人に教えて、人を導くとなると、より難しく慎重になる必要が出てきます。なんせ、「私たちが正しい、イエス様の正しい掟を守ってほしい」という態度は、相手にとってみれば「自分を否定する」態度にとられかねないのです。

だからこそ、私たちがまず行うことができるのは、「命を大切にする。暴力を肯定しない」「平等を大切にする。不平等をそのままにしない」「一緒に生きる一人一人を、人として尊重する。」

「清潔さを含めた清さを大切にする」などの、「どんな人にとっても当たり前前に肯定できる正しさ」でありながら「隣人を愛する」という神様の掟を守ることを、私たち自身が真摯に行いながら、それが「信仰の結果」であることを堂々と表すことなのではないのでしょうか。そんなことから始めるすべての生活をもって、「私たちがこの生活を、喜んで行っている」という喜びによって「うらやましく感じられる」ほどに、生き生きと歩み続けることができれば、それこそが「生き方を教える」「正しさを教える」ことにつながっていくのだと思います。

そう考えれば、今日の説教題である「私たちにとっての律法」は何かと尋ねられた場合、旧約聖書の言葉が何のためにあるのかと聞かれたときには、「正しく生きるために、自分を律するための言葉」と答えることになるのでしょうか。そして、その正しさによって、生き生きと生きるために与えられていると、そう言うことが出来ると思います。そのすべてが、この現代の日本でそのまま使えるわけではありませんが、律法に示された隣人への愛と、イエス様をこの世に遣わしたほどの神様の愛の大きさを、私たちはそのすべての言葉から知ることが出来るのです。私たちに与えられたすべての言葉が、私たちを生き生きと生かしてくれている、その喜びを胸に、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マタイによる福音書 5 章 17～20 節

- 17: 「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っはならない。廃止するためではなく、完成するためである。はっきり言うておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。だから、これらの最も小さな掟を一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを守り、そうするように教える者は、天の国で大いなる者と呼ばれる。言うておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさってなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」

関連箇所

イザヤ書 30 章 18～21 節

それゆえ、主はあなたがたを恵もうと待ち／あなたがたを憐れもうと立ち上がる。／主は公正の神であられる。／なんと幸いなことか、すべて主を待ち望む者は。シオンの民、エルサレムに住む者よ／あなたはもはや泣くことはない。／主はあなたの叫び声に応じて／必ずあなたに恵みを与えてくださる。／主がそれを聞かれると／直ちにあなたに答えられる。主があなたがたに／苦悩のパンと苦しみの水を与えられても／あなたの導き手はもはや隠れることがなく／あなたの目はあなたの導き手を見る。あなたが右に行くときも、左に行くときも／あなたの耳は、背後から／「これが道だ、ここを歩け」と語る言葉を聞く。

テモテへの手紙一 4 章 4～16 節

神が造られたものはすべて良いものであり、感謝して受けるなら、捨てるべきものは何もありません。神の言葉と執り成しの祈りとによって聖なるものとされるからです。これらのことをきょうだいたちに示すなら、あなたは、信仰の言葉と、あなたが従ってきた良い教えの言葉とに養われて、キリスト・イエスの良い奉仕者となるでしょう。俗悪で愚にもつかない作り話を避けなさい。敬虔のために自分を鍛えなさい。体の鍛錬も多少は役に立ちますが、敬虔は、今と来るべき時の命を約束するので、すべてに有益だからです。この言葉は真実であり、すべて受け入れるに値します。私たちが労苦し、闘っているのは、すべての人、とりわけ信じる人々の救い主である生ける神に望みを置いているからです。これらのことを命じ、教えなさい。あなたは、年が若いからといって、誰からも軽んじられてはなりません。むしろ、言葉、振る舞い、愛、信仰、純潔の点で、信じる人々の模範となりなさい。私が行くまで、聖書の朗読と勧めと教えとに専念しなさい。あなたの内にある賜物を軽んじてはなりません。その賜物は、長老たちが手を置いたとき、預言を通してあなたに与えられたものです。これらのことに努め、そこから離れないようにしなさい。そうすれば、あなたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。自分のことと教えとに気を配り、それをしっかりと守りなさい。そうすれば、あなたは自分自身と、あなたの言葉を聞く人々とを救うことになります。